

令和2年5月20日

自民党秋季入学検討WT 御中

全日本私立幼稚園PTA連合会

「秋季入学」についての意見

新型コロナウイルス感染症の影響から、国の緊急事態宣言の発令に基づく臨時休業により、全国の子供たちが卒園を目前にした年度末から入園・進級し新たにスタートした、幼稚園や認定こども園に通園できないことに子供をはじめ家族皆が困惑し不安の中にあります。この感染が終息に向かい日常生活が回復し幼稚園、認定こども園に毎日通園できる日が来ることを願っています。

このような状況の中で突然9月入学（入園）・始業の話が持ち上がり、様々な場で実施ありきの性急な議論が進められていることに、現在、幼稚園、認定こども園に在園する保護者として、小学校入学前の子供と家族の存在、そして、休園中にあっても預かり保育の継続や様々な形で子供と家庭と繋がり日々努力されている教職員の皆様の存在が、置き去りにされ蔑ろにされている様に受け止めざるを得ず憤りすら覚えずにいられません。

未就学児は調整弁ではありません！私たちは、幼稚園児を置き去りにした拙速な9月入学・始業への移行に断固反対し下記の通り表明いたします。

1 すべての子供に平等で安定した幼児教育の機会を保障してください。

- ・ 子供が与えられる幼児教育の機会の縮減を生じる変更は絶対に認められません。
- ・ 移行措置により生まれ月の違いで、学年の分断や、特定の子供の幼児教育期間が縮減する等の不平等が生じる事は絶対に認められません。
- ・ 例えば、年中に進んだ子どもたちが、半年もしないうちに年長の子どもたちと一緒に小学校に上がるような案まで取りざたされています。これで子どもの教育は大丈夫なのか、保護者にとってこんな不安なことはありません。
- ・ 幼児は児童生徒に比べ、制度変更の影響を受けやすいことに十分配慮して下さい。
- ・ 特に障害や障害の疑いのある幼児は急激な環境変化への適応が難しく、一年単位の安定した生活と教育機会の保障が必要です。

2 家計等の負担増、共働きの家庭の就業等への影響がある9月入学・始業に移行は受け入れられません。

- ・ 幼児教育・保育の無償化の実現は、保護者にとってまことに有難く思っていますが、それでも、入学が遅れますとその分様々な経済的負担は増えざるをえません。
- ・ 入学の遅れは共働きの家庭や、母親が就業を予定していた家庭に家庭保育の負担増等や就業機会の喪失をもたらします。
- ・ 幼稚園や認定こども園、保育所の入園が遅れたり、小学校の入学が遅れることにより、未就園児や学童保育に待機児童が増加することは、家庭はもとより幼稚園、学校等社会全体に大きな負担と影響を与えます。

3 すべての子供たちの健全な成長を第一の目標において検討して下さい。

- ・ 新型コロナウイルス感染症によって、大きな社会変容が起き混乱や不安定な状況がある中、若い子育て世代には戸惑いと不安が深まっています。その様な状況にある中で、十分な議論や準備がなされず、環境整備が整わない中での9月入学・始業の実施は、保護者や家族の将来に対する不安を助長し、この国の少子化を一層加速する要因になる可能性が高いと強く懸念いたします。
- ・ 「国際標準」の議論に引きずられて、幼児教育、そして子供たちの健全な成長がないがしろにされることがないように強く要望いたします。
- ・ 子どもたちの日本の将来にとって必要なのか。もっと国として地方行政として、現場から保護者から意見を吸い上げ、社会、マスコミに出てくるのが当然であり、今回の議論はあまりにも唐突で順序が逆であり、新型コロナウイルスで戦っている私たちにも配慮してください。